

例会報告

「夢実現！福岡空港バックヤード探検隊」

福岡県福岡市（2025.7.27）

夏休み、しかも休日の福岡空港は、朝から人で溢れかえっていた。そんな中、早々に申し込んで頂いた少年団の参加者24名と引率スタッフが集合した。お出迎えいただいたのは8名のJALの皆さん。バックヤードに入るには、まず金属探知による所持品検査を受けなければならない。参加者が2グループに分けられ、全員が腕を拡げて金属探知機で検査を受けた。その後、歓迎のメッセージが手書きされた名札、腕章、イヤフォンが付いた受信機、これは説明する人の声がきれいに聞こえる優れものだった。

いよいよ、普段立ち入ることが出来ない制限エリアのドアが開かれた。さあ、未知なる探検のスタートだ！最初に訪れたのは、「グランドハンドリング」と呼ばれる特殊車両が置かれているところ。飛行機はバック（後退）ができないため、特殊な形状をした器具が付いた車両が飛行機を押して動かしてくれるのだ。中でもトーイングカーは飛行機のタイヤを持ち上げて移動させるタイプで、本体の重量は約50トン。軽く20～30トンの機体を持ち上げる能力があり、金額は億単位だそう！！見学した車両は九州に1台だけだそうで、全ての機種に対応するらしい。

次に訪れたのは「整備器材庫」国家資格を有する、一見しただけで熟練工だとわかる方に、飛行機用の巨大なタイヤが並ぶ中で（少々マニアックな）説明をしてもらった。私個人も初めて知ったことだが、飛行機の胴体をつくる材料にはアルミ製とCFRP（強化プラスチック）製があり、その性能に大きな違いあるとのこと。CFRP製の機体は軽いため、スピードも速い。燃費も良く、航続距離も長い・・・と良いことづくめ。またCFRP製の飛行機は強度が高いため、機内の圧力を高くできる。そのため、搭乗しているお客様の疲労度も少ないという。

整備器材庫を後にした我々は、行き交う職員の方と挨拶を交わしながら、いろいろな部屋を通過するが、説明はなし、いやできないようだ。改めてセキュリティの高さを感じてしまう。外に出たら、見慣れた光景。目の前にはトーイングカーに押され、滑走路に向かう機体の姿が飛び込んでくる。かなりの“騒音”だが、イヤフォンからはクリアな声が聞こえている。欲しくなってきた！さて、細かな説明を受けた後、私たち全員で東京行きのJALの飛行機を見送った。全員で手を振り飛行機を見送ると、気分は空港関係者気分。

ソーティングエリア（荷物の仕分けエリア）を通り、いったん多くのお客さんでごった返すエリアに出て、福岡空港の巨大さをまざまざと感じながら、次のエリアに向かう。再び関係者エリアに入り、案内されたのは会議室。ここで改めていろいろな部署からのお話をうかがった。

グランドハンドリングは日本語に訳すと空港地上支援業務。貨物を積み込んだり、飛行機まで通路を伸ばすパッセンジャーボーディングブリッジや飛行機への搭乗で使用する階段＝パッセンジャーステップを操作する等の業務だ。客席の下に広がる貨物室の大きさに感心したり、使用する機材の値段に驚いたり・・・。また、世界に1台しかない幸せを運ぶ黄色の貨物用コンテナ、またピンク色のコンテナの存在もレアな情報だった。貨物を積み込む際は、ウェイト&バランスに気を付けるという話には納得。そのほか、エンジンの

中についている22枚のファンブレードは目が飛び出るくらい高額だが、バードストライクで3枚交換したというエピソードには、ため息が出た。

最後の質問コーナーでは、団員の男の子から飛行機のエンジンのメーカーごとの違いについての質問が出たが、整備士の人とのやり取りは、私には少し難し過ぎて、半分ほどしか理解できなかった。まさしく、SYSC 団員らしいと一同納得した次第。

随所に JAL の皆さんのおもてなしの心を感じた体験だった。私たちには1時間30分の体験だったかもしれないが、手書きのメッセージカード作りや説明用の資料の準備など、かなりの時間を要したはずだ。何よりセキュリティの壁をどう乗り越えて子ども達に満足のいく体験してもらうか、ずいぶん悩まれたことが容易に想像できる。末尾になったが、改めて感謝の気持ちを捧げたい。(参加者27名 報告：井上英史)



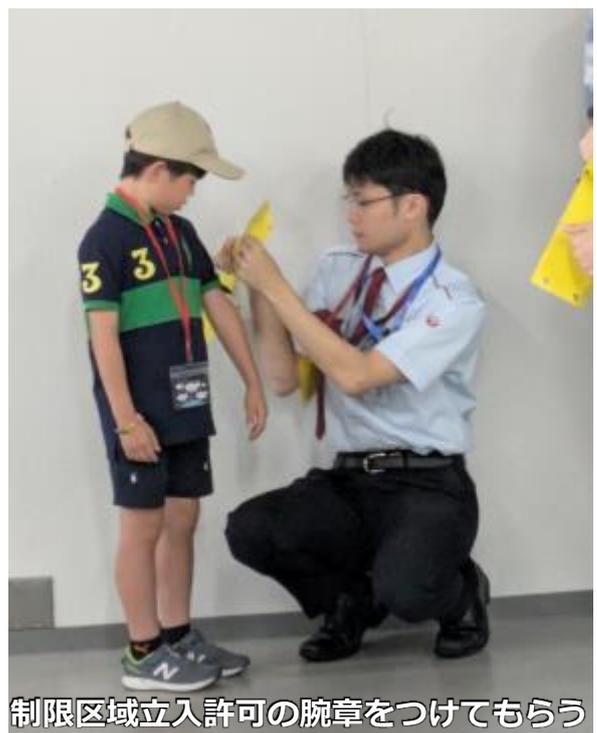
JAL 羽田行きを見送る！



九州で1台のトーイングカーの説明



クイズで盛り上がる！



制限区域立入許可の腕章をつけてもらう



整備器材庫—巨大タイヤが並ぶ